端午の節句に欠かせない和菓子、柏餅。
平たく丸く延ばした餅を二つに折り、
餡をはさんで柏の葉で包んだ柏餅は、
東海道白須賀宿（静岡県湖西市）と
二川宿（愛知県豊橋市）辺りが
発祥の地とも言われています。
その由来の一つが、この地で
「勝和餅（かちわもち）」と呼ばれていた
理由に絡む、天下の太閤・豊臣秀吉。
広重や北斎の浮世絵にも名物として
登場する柏餅は、幾重もの逸話に包まれています。

## 太閤秀吉の勝戦に貢献!?縁起の良い「勝和餅（かちわもち）」

三河・二川宿と遠州・白須賀宿の国境あたり、「猿ヶ番場（さるがばんば）」と呼ばれる地で、だんごにそてつの餡を入れた餅を柏の葉に包んで名物としている一軒の茶屋がありました。この餅を主人の老夫婦から「かしわもちです」と振舞われたのが、小田原征伐に向かう途中の豊臣秀吉。その後、戦で勝利を挙げた秀吉は帰国の折再びこの茶屋を訪れ、行き路で食した餅の名に戦の勝利を重ねて「勝和餅（かちわもち）」と呼ばせたとか。さらに、自分もその風貌からかつて「猿」と呼ばれていた秀吉は、茶屋のお婆さんがあまりに皺だらけだったのを面白がり「今後、この餅を猿ヶ婆（さるがばば）の勝和餅と申せ」と言って褒美を取らせたという逸話が残されています。この「猿ヶ婆（さるがばば）」の呼び方が、いつしか土地の名前「猿ヶ番場（さるがばんば）」と重なって、「さるがばんばの勝和餅」と呼ばれるようになったと言われています。

## 柏餅の逸話が垣間見られる東海道沿いの歴史資料館

柏餅発祥の地と言われる東海道白須賀宿から二川宿一帯の地域。このあたりには、豊橋市の「二川宿本陣資料館」をはじめ、静岡県湖西市の「おんやど白須賀」など、古くから重要な道として栄えてきた東海道の当時の様子を今に伝える歴史資料館があります。「おんやど白須賀」には、豊臣秀吉とかちわ餅の逸話が書かれた古文書「柏餅由来」の写しや、「猿ヶ番場の勝和餅」の話が登場する、この地域の民話や逸話を子供向けに描いた絵本も展示されています。

白須賀宿歴史拠点施設「おんやど白須賀」

## 広重や北斎の浮世絵にも登場する〝名物 かしわ餅〟

葛飾北斎「春興五十三駄之内 白須賀」看板に「かしハの餅」の文字。

東海道の道中や宿場の様子をいきいきと描いた浮世絵にも登場する柏餅。歌川広重は「東海道五拾三次之内二川」で、荒涼とした原野の猿ヶ馬場を背景に「名物かしわ餅」と看板を書いて柏餅を売る店とその餅を買う武士を描いているほか、葛飾北斎は「春興五十三駄之内白須賀」で「かしハ（わ）餅根元名代」と柏餅をこの地の元祖名物として描いています。